

平成24年度第1回奈良県社会教育委員会議（概要）

〔報告書〕

- 1 日 時 平成24年8月22日（水）10:00～12:00
- 2 場 所 奈良県文化会館第3会議室
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち、大寺和男 岡田龍樹 岡本真寿美 杉井潤子
藤堂真紀 中島祐子 中西 達 藤田謙治 藤野良次 宮坂靖子
森田真康 山田高福（敬称略） 12名
- 4 内 容 (1) 開 会 あいさつ 奈良県教育委員会 富岡教育長
(2) 委員紹介
(3) 議長・副議長選出（議長：山田委員 副議長：中島委員）
(4) 議 事



- ① 平成24年度奈良県社会教育関係事業の概要について
② 地域の教育力を高める具体的施策及び方向性について
ア 学校・地域連携事業を発展させる取組について
イ 地域教育・家庭教育向上の取組について

5 委員からの主な意見について

- コミュニティのサイズとしては小学校程度がよいと思う。必ず子どもを中心に据えないと町づくりは進まないと思う。大人は、子どもに関して協力的であり、そういう意味でこの学校・地域連携事業は優れた手法である。
- モデル校プロジェクトでは、教師が地域と関わることになる。学校の先生に負担なく地域との連携を通して、校区の中で子どもを育てていく仕組みづくりができていけば、いろんな課題も見えるようになり、解決に向かうのではないかと期待する。また、事業の取組の結果、学力・学習状況調査のデータがどう変わったか、検証も必要である。
- PTAから地域コミュニティのCを加えたPTCAを合い言葉に、どういうふうにもっていけば地域の人に学校に関わってもらえるか模索している。
- 学校・地域連携事業をはじめ、奈良県の事業はきめ細かくやられている。現在は、人と関わらなくても生きていける社会でもあるので、挨拶が大事である。声を出す挨拶もあるが、手紙という形で、地域のメッセージを目に見えるように伝えていくと1対不特定多数に伝わっていくようになる。
- 今の子どもは、人と接する範囲が狭いので、より多くの人にふれることが大切である。事業の取組を通して、教師とPTAとが共通理解しながら地域とのつながりを深めたい。
- 先生にも親にも言えないが、地域の人には何でも言えるというシステム・環境を構築してほしい。そうなれば地域の教育力に関して評価できる。
- 私たちは何事にも結果をすぐに求めがちであり、奈良モデルもすぐには結果が出ないと思うので、子どもを中心に据えて、学校と地域・家庭の関係をどうやって築いていくのか、かなり時間がかかると思うが、温かく見守っていきたい。
- 県の家庭教育プランは充実している。県が行っている、まもなく親になる高校生が入った取組がすばらしい。
- できるだけ地域の方とふれあう機会を増やすことで、子どもにたくましさを付けさせる機会を作っていきたい。叱ったらいいか迷う親がいるので、地域が保護者にアドバイスできる仕組みがあるといい。

